

大学生のオンライン講義における ろう者・難聴者の参加環境実態

Actual participation environment of Deaf and hard-of-hearing students
in online lectures for university students

産業技術学部 ・ 准教授

櫻庭 晶子

キーワード

オンライン講義、ろう者、難聴者、大学生、健聴者

研究概要

本研究では、ろう者・難聴者（156名）と健聴者（59名）を対象に、オンライン講義を受ける環境と改善策のアンケートを実施しました。その結果、ろう者・難聴者と健聴者に大きな違いは見られませんでした。オンライン画面上で、音環境への対応が見られました。音環境については、快適な受講環境が重要視されるのは当然のことながら、健聴者が発言する時、講義ではマイクをオンにするため、周りの音が入ってこないように配慮している一方で、手話使用者はずっと音声をミュートにして、気にしない傾向があるようです。今後、ろう者・難聴者では改善したい項目として、快適環境に関連する座りやすさと、目の疲れや画面の見やすさをあげていました。特に、目が疲れにくくする改善については、ろう者・難聴者が約5割、健聴者3割が改善を希望していました。ろう者・難聴者が視覚的な見やすさへの改善を望んでいることが再確認されました。

表 オンラインの聴覚障害者の改善項目

改善したい項目	ろう者・ 難聴者	健聴者
長時間でも楽に座れるようにする	89 (57.1)	30 (50.8)
目が疲れにくくする	81 (51.9)	19 (32.2)
集中力が上がるようにする	65 (41.7)	22 (37.3)
画面を見やすくする	61 (39.1)	16 (27.1)
モチベーションが上がるようにする	53 (34.0)	14 (23.7)
他の音が入りにくい場所に する	45 (28.8)	27 (45.8)
相手に見られても構わない背 景にする	45 (28.8)	19 (32.2)
相手に好感を持たれる背景に する	28 (17.9)	12 (20.3)
室温がコントロールできるよ うにする	32 (20.5)	9 (15.3)
自分がきれいに見えるように する	21 (13.5)	14 (23.7)

表の数字は回答者数と(%)。黄色の網かけは「ろう者・難聴者」と「健聴者」との有意差があった ($p < .05$)。

応用例・用途

オンライン会議システムや遠隔コミュニケーションツールの開発・改善に役立ちます。特に、ろう者・難聴者を含む多様なユーザーへのアクセシビリティ向上に貢献できます。本研究で示された「音環境」や「視覚的な見やすさ」への配慮は、より質の高いコミュニケーションを支援するシステム開発に役立ちます。また、教育機関では、オンライン授業における聴覚障害学生へのサポート体制構築に役立ちます。



国立大学法人 筑波技術大学 学術・研究委員会

【問い合わせ先】

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4-3-15

TEL : 029-858-9339 FAX : 029-858-9312

大学戦略課 企画戦略係

E-MAIL : kenkyo@ad.tsukuba-tech.ac.jp